



令和5年度

幼保小架け橋プログラムに関する調査研究事業

中間報告会資料 ～横浜市

こども青少年局保育・教育支援課幼保小連携担当

① 架け橋期プログラムに取り組む市の現況

② 架け橋期カリキュラムの概要及び作成プロセス

③ 教師の指導・援助及び子どもの学びの変化

④ 次年度以降の展望

① 架け橋期プログラムに取り組む市の概況

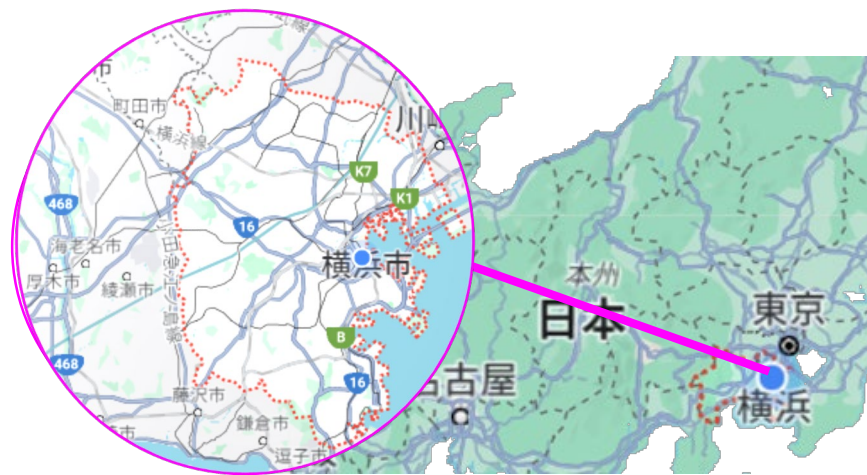


明日をひらく都市
OPEN X PIONEER

施設数

| 種別 | 小学校・義務教育学校 | 特別支援学校 | 幼保連携型こども園 | 幼稚園型認定こども園 | 私立幼稚園 | 市立保育所 | 民間保育所 | その他 |
|--------|------------|--------|-----------|------------|----------------------|-------|-------|------|
| 数 | 338 | 13 | 49 | 15 | 223 | 58 | 806 | 約300 |
| 公立幼稚園0 | | | | | 合計約1800施設 (R5.4.1時点) | | | |

人口約377万人
多様な
環境・地域性・ニーズ



生かしたい横浜の強み

- 大都市ならではの多様な取組
- 幼保小連携を大切にしてきた歴史と
先行研究の豊富さ
- 時代を切り拓く精神、豊かな創造性をもつ風土

幼保小連携に関する歴史ある取組

- 昭和59年～（現在） 幼保小教育連携研修会開始
- 昭和59年～（現在） 幼保小教育交流事業＜①18区ごとに毎年実施＞
- 平成7年～（現在） 幼保小連携推進地区事業開始（3年間指定）
＜②幼保小ブロック36地区で実施＞
- 平成31年～（現在） 接続期カリキュラム研究推進地区事業開始
＜③幼保小ブロック4地区で実施＞

様々な研究・研修事業



明日をひらく都市
OPEN X PIONEER

A研究事業

1 推進地区研究地区

テーマに基づく3年間の連携・接続に関する研究

公開授業
公開保育

連携推進地区:職員間の連携

カリ研究地区:カリキュラム協働開発・公開

2 実践事例集作成委員会

幼保小連携担当による、地区の好事例の収集

外部講師による監修・助言

事例集作成

3 カウンセリング研究会

臨床心理士による講座

各自のテーマに基づく実践研究

幼保小の職員が一緒に参加し体験をとおして学ぶ+仲間づくり

4 「遊び」研究会

非認知能力を育む遊びの追究

遊び込みを促す環境構成の追究

企業との協働による保護者・地域への啓発

5 接続期研究会

接続期研修会の企画・振り返り

接続期カリキュラムの理念整理改訂企画

リーフレットの内容検討

B研修事業

1 接続期研修

スタートカリキュラムの授業公開を伴う研修会

児童支援専任研修との共催で行う研修会

次年度のスタートカリキュラムの充実を図る研修会

年度末のニーズと、先生方の働き方に配慮した「動画配信型」の研修

2 教育連携研修

10の姿を視点にした、幼保小の実践を共有

全体会・分科会における保育・教育観の変容

幼保小連携担当による好事例の収集

3 教育交流事業

区実行委員会が行う職員間の交流事業

幼保小職員保護者地域連携

幼保小合同研修会

園児児童交流会

保護者地域とともに学ぶ健やか子育て講演会

連携推進地区 連絡会
カリキュラム研究推進地区連絡会

K接続期運営委員会(接続期カリキュラム開発会議)

地区実行委員会

図書事業

ハマアップとの連携

質向上事業

調査検証事業

幼保小連携実態調査

②架け橋期カリキュラムの概要及び作成プロセス



明日をひらく都市
OPEN X PIONEER

カリキュラム作成の方向性

架け橋プログラムにおいて目指すことは、
規模や多様性を超えて、「安心」と「探究」を大切に
「**今と未来を生きる子どもをともに育む**」

「それぞれの学校、園が、今あるカリキュラムを架け橋の視点で見直し、運営・改善しながらリ・デザイン※
する」ことを目指す

※現在運用されているものを、さらに「最適化」する

カリキュラム作成に向けた手立て



明日をひらく都市
OPEN X PIONEER

「それぞれの学校、園が、今あるカリキュラムを架け橋の視点で見直し、運営・改善しながらリ・デザインする」

第**1**段階・・・

「園と学校との対話を**充実**させる」

第**2**段階・・・

「対話が充実し保育・教育に**生かされる**よう促す」

第**3**段階・・・

「保育・教育への反映を**持続可能**とするよう支える。

第1段階・・・「園と学校との対話を**充実**させる」

- 子どもの姿で語り合い、共通点やつながりに気付く 「観(特に子ども観)の共有」
- 実際の保育・教育に生かすことが、子どもの育ちを支える上で有効だと実感する
- 5歳児と1年生だけでなく、園全体、学校全体に相互理解と協働の意識が広がる
- 実践したことを再度持ち寄って交流する、というサイクルが生まれる 等

そのために・・・「**視点**」と「**ツール**」を提供する

どうする「対話の充実」

○対話の「視点」を提供

小学校の若手教諭が、グループのファシリテーターを行うとしたら？と想定

右のグランドデザインワークシートを使って「架け橋カリキュラム」を考えてみましょう！

1 まずは、「育てたい子どもの姿」の共有です。ワークシートの「エリア1」を記入してみましょう。

2 次に、「すべてを含めたいもの」の共有です。ワークシートの「エリア2」を記入してみましょう。

3 そしてよいよ「エリア3」を使ってグループワークをしてみましょう。

グループワークのやり方

トピック1

ワークの進め方

- ①【問1】から、思い浮かんだ場面を付箋にひとこと（短く書くのがオススメです）書きましょう。
- ②付箋をワークシートに貼りながら、「ひとこと」から広がるエピソードをお互いに話したり聞いたりしましょう。メモを書き込んでもいいですね。
- ③それぞれのエピソードについて、共通点を見付けたり内容を深めたりするために、【問2】について考え、付箋やメモを書き足したりつなげてみましょう。
- ④さらに、【問3】について話し合い、共有したことをキーワードにまとめてみましょう。
- ⑤これで、参加者みなさんのアイデアで作った架け橋のカリキュラムが一つ出来上がります。

さあ、トピックの一つ選んで、ワークに取り組んでみましょう！

トピック2

【問1】 この子が困っているように思えるけれど、どう関わってよいかわからないことはありませんか？

【問2】 そんな後、園や学校ではそれぞれどうしていますか？

【問3】 子どもが困っている時の援助や、環境整備等、どんな工夫が考えられるでしょうか？

トピック3

【問1】 最近の子ども同士の結構小交流活動で、子どもはどんなことをしていましたか？

【問2】 交流をしながら、子どもはどんな様子でしたか？

【問3】 さらに充実した交流とするために、次はどんなことに取り組んでみたいですか？

トピック4

【問1】 アプローチカリキュラム、スタートカリキュラムで悩んでいるとは何ですか？

【問2】 お互いの悩みにヒントを伝え合うとしたらどんなことですか？

【問3】 もらったヒントは、年齢の保育・教育のどんなところに生かそうですか？

トピック5

【問1】 子ども全体の活動がなかなかうまくいかないと感じていることはありませんか？

【問2】 逆に、どんな事なら「子ども主体」でできましたか？

【問3】 子ども主体の活動を実現するために大切なことは何でしょうか？

トピック6

【問1】 日本製や日本の生活に不自由を感じている子どもはいませんか？

【問2】 その子が安心して楽しく生活できるようにするために、工夫したことはありますか？

【問3】 今後も取れない支援するために、園・学校・保護者・地域で協力できることはありますか？

ほかにも自分たちに合ったトピックを考えてみる也很好いですね。

出来上がった「カリキュラム」は、架け橋期に育てたい子どものどんな姿、どんな力の育成につながるでしょうか。それを考えながら、それぞれの園や学校の明日からの活動、これからの計画立案、保護者への発信等、いろいろなところで活用していきましょう。そして、ワークシートを使ってさらに増やしたり更新したりしていくことが、カリキュラムマネジメントとなります。

方策1 6つの「話題」を提示

大人が「具体的な子どもの姿」を基に対話し、「子ども観」や「支援の在り方」を共有していくために…。(開発会議)

話題「夢中」

問1

最近見た子どもの姿から、「何かに夢中になっているな」と思った場面はありますか？

問2

そのような子どもの姿は、どのような環境や援助によって見られたのだと思いますか？

問3

夢中になれる姿がより多く見られるようにするために、次にどんなことをしたらよいでしょうか？

グループワークのやり方を 話題「夢中」を使って紹介します。

ワークの 進め方

- ①【問1】から、思い浮かんだ場面を付箋にひとこと(1つか2つに絞り、短く書くのがオススメです)書きましょう。
- ②付箋をワークシートに貼りながら、「ひとこと」から広がるエピソードをお互いに話したり聞いたりしましょう。メモを書き込んでもいいですね。
- ③それぞれのエピソードについて、共通点を見付けたり内容を深めたりするために、【問2】について考え、付箋やメモを書き足したりつなげたりしてみましょう。
- ④さらに、【問3】について話し合い、共有したことをキーワードにまとめてみましょう。これで、参加者みなさんのアイデアで作ったわたしたちの「架け橋カリキュラム」が一つできました。



さあ、話題の一つを選んで、ワークに取り組んでみましょう！

話題「困り感」

話題「交流」

話題「接続期カリ」

○対話の「ツール」を提供

- ・職員交流の場面が事務的な打ち合わせに終始しないようにしたい・・・
- ・子どもの姿で語り合い、シートに書いたり貼ったりして見える化することで、共通して意識することや、相違点をはっきりできないか・・・

開発会議

方策2

架け橋カリキュラムデザインシートを作成し、各幼保小連携地区の研修等での活用を促す

乳児



幼児



Let's talk about our

架け橋カリキュラム デザインシート

小学生



中学生



今と未来を生きる子どもを育みます from 保育・教育宣言

自ら学び、社会とつながり、共に未来を創る人 from 横浜教育ビジョン2030

一人ひとりのよさを発見し育てる
夢中になって遊び込むことによる育ちを大切に
豊かで多様な環境との関わりを保障する人・場・もの・事象・時間

幼稚園・保育園

まずは 育てたい子どもの姿を共有しよう!

育てたいことあるよ
もつともつわりのいいやつてみたい!!

ベースとなるのは、育ちを学び手としての子ども観

未知なことや分からないことを自分なりに考え、自分自身で納得するまで探求し続ける遊びや体験

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

非認知能力 認知能力

→ 問いをもち、問い続ける

どうすればいいかわからないだろうか?
ほかのひとはどうかかえていられるだろうか?

→ 探究的な学び

| 知識及び技能 | 知 徳 体 公 開 |
|--------------|---|
| 思考力、判断力、表現力等 | 〈中期学校経営計画〉 9年間で育てたい子どもの姿、育成を目指す資質・能力 |
| 学びに向かう力、人間性等 | |

教科横断的な視点に立って
多様性をふまえて
学校間のつながりを大切に

学校

保育教育 宣言2

子どもの育ちと学びを支える主体的な遊びを大切にします

保育教育 宣言1

安心 できる環境をつくり、一人ひとりを大切に保育します

つぎに 保育・教育の根底を支え、すべてを包み込むものを共有しよう!

キーワードは 安心

「学びの芽生え」を「自覚的な学び」につなぐために

- ・安心感、信頼感を大切に、子どもを見守る
- ・子ども一人ひとりを受け止める
- ・子どもが様々な人と関わることを大切にする
- ・自己有用感を育む ・多様性を尊重する

横浜市人権教育の2つの理念

人とのつながりから学び自分も他の人も大切にできる子どもの育成

「だれもが」「安心して」「豊かに」

架け橋プログラムリーフレットで対話を促す



明日をひらく都市
OPEN X PIONEER



研修における対話のツール
として『Let's talk
about our 架け橋プログ
ラム@ヨコハマ』を発行
(R5.4月)

第2段階・・・

「対話が充実し保育・教育に**生かされる**よう促す」

- ・環境を見直し整備することにつながる
- ・これまでも行っていた活動の見直しを図る
- ・様々な情報から、それぞれの幼保小連携地区の実情に合った取組を取り入れる 等

○対話の充実による発見や共有が、実際の保育・教育に**生かされる**ために

方策3

様々な情報発信や研修会の開催

各幼保小連携地区の取組への具体的な支援



情報発信 : 「架け橋プログラムだより」 事例発信 バナーの提供

研修会 : スタカリ公開授業研・保育参観 各種研修会

具体的支援 : 幼保小連携ブロック研修会での助言

令和5年 月 日 vol.5

幼保小の架け橋プログラムだより

このお便りは、横浜市の「架け橋プログラム」の一環として発行しています。架け橋期の教育の充実のために、みなさんの取組に生かしてください。

「えんちょうせんせい、みにきてね！」

新年度がスタートして約3か月が経ちました。この春1年生になった子どもたちは、学校の様子が変わってきて、のびのびと学校生活を送っているでしょうか。

「校長先生、先日いただいた運動会の招待状は「うんどうかい、みにきてね！」と、1年生からの手紙も入っていました。職員と校長が行った、笑顔で子どもと交流を促して、頼もしいなあと思いました。」

「K園長先生、いらしていただきありがとうございます。園の先生方に読んでいただき声をかけられると、子どもたちはとても嬉しそうでした。ますます自信をもって学校生活を送ることにつながるので、こういう機会は大変ですね。今度は普段の授業の様子も見てもらってください。」

卒園児を送り出した園の先生方は、「学校でどうしているかな。」と様子が見えかかるところですね。運動会や授業参観などの行事もひと段落付いた学校も多い時期ですので、日頃の授業の様子を参観されてはいかがでしょうか。

園のトイレ、学校のトイレ

「園のトイレは、男女分かれておらず、大人が上から確認できるような壁が低い作りです。乳児用にはおしり拭きもありません。」

「小学校のトイレは、大人用と同じように個室の壁や扉の背が高い作りです。また、まだ和式トイレの多い学校もあります。」

「園のトイレは、男女分かれておらず、大人が上から確認できるような壁が低い作りです。乳児用にはおしり拭きもありません。」

「小学校のトイレは、大人用と同じように個室の壁や扉の背が高い作りです。また、まだ和式トイレの多い学校もあります。」

園のくつばこ、学校の靴箱

「男風呂を見て思ったのですが、子どもたちは靴箱の場所に迷いませんでしたか？」

「小学校では、靴箱の個人のスペースの上部に名前や番号が書かれているのが一般的です。お店の看板のような位置だと思います。一方多くの園では、子どもが靴を入れる場所の内部に、名前やその子のマークをシールで貼っています。」

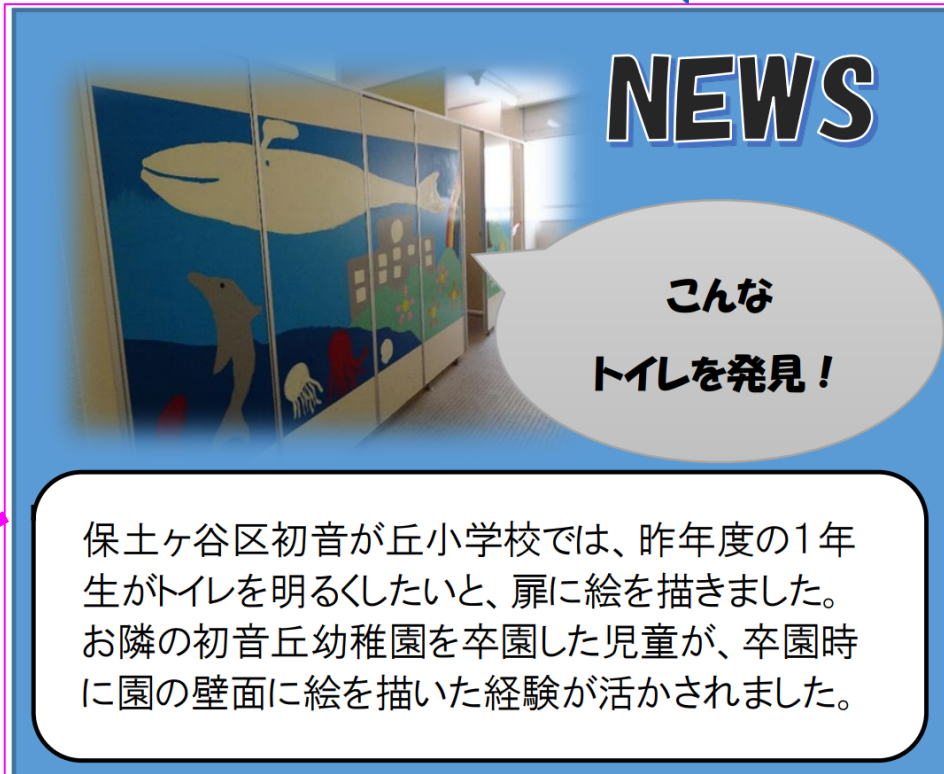
「園ではどうしていたかを知ると、子どもが戸惑うのがなぜなのか分かりますね。」

園と学校の当たり前を知ってもらうこと、子どもの安心を支える一歩に役立ちます。

NEWS

こんな
トイレを発見！

保土ヶ谷区初音が丘小学校では、昨年度の1年生がトイレを明るくしたいと、扉に絵を描きました。お隣の初音丘幼稚園を卒園した児童が、卒園時に園の壁面に絵を描いた経験が活かされました。



架け橋プログラムだより

公開授業研究会・保育参観



こんなふうに園訪問を
させてもらいましょう

内容、方法ともに発信

こんな対話を
してほしいです

○実際の保育・教育に**生かされる**ために

方策4

**「1年生の学習指導案に、児童の実態として園での経験等を記入する」
～小学校教育研究会、小学校長会等へ説明・依頼**

- ・1年生担任が、児童に「園ではどうしていた？」と問いかけながら。
- ・園での活動の経験をリサーチしながら。

②架け橋期カリキュラムの概要及び作成プロセス



明日をひらく都市
OPEN X PIONEER

実際に指導案に記入した学校からの声

○担任が活動を考えたり、子どもを見取ったりしていく中で、「園に聞いてみよう」と思えるようになってきた。

○導入において、「園ではどうだった？」という声掛けを行い、子どもたちの園での経験から授業の構成を考えたり、身に付けたい資質・能力が明確になったりといった変化が見られた。

○実際に、記述する上では、園の先生方に話を聴くプロセスを経ることで、支援や手立てがどうだったか、学ぶ機会になっています。生活科や学級活動など、やらせっぱなしにならないように意識を高める機会にしています。

第3段階・・・

「保育・教育への反映を**持続可能**とするよう支える。

○『見える化』と『運営・改善』をサポートする。

『見える化』→組織として持続可能となる。

『運営・改善』→「つくって終わり」とせず、実効性のあるカリキュラムとするため、園・校のカリキュラムマネジメントを支援する。

○日々の保育・教育への反映を「見える化」するために

方策5（令和5年度後半～6年度）

推進地区のカリキュラム作成例等による「参考例」の提示

- ・あくまでも「参考例」として提示し、自園・校に合わせた活用を促す
- ・横浜版接続期カリキュラム・令和6年度改訂版による発信

「10の姿」を手掛かりとした「日案」の作成

4月14日(水)の
日案を整理しよう。

給食の先生(係)と手話でお話しよう。

ぐんぐんタイム
ひらがなとなかよしの「雨が入るかなゲーム」をしよう。

わくわくタイム
巻を探そう。
見つけたことを発表しよう。

ぐんぐんタイム
給食の準備をしよう。

13時15分頃
給食袋、国語の教科書

日案

4月14日(水)の日案

<朝>
○ 掃除機を回す。掃除機が回らない理由を調べる。
○ 朝の挨拶(おはよう) 声を出して挨拶しよう。
○ 朝の挨拶(おはよう) 声を出して挨拶しよう。
○ 朝の挨拶(おはよう) 声を出して挨拶しよう。

<ぐんぐんタイム>
○ 朝の挨拶(おはよう) 声を出して挨拶しよう。
○ 朝の挨拶(おはよう) 声を出して挨拶しよう。
○ 朝の挨拶(おはよう) 声を出して挨拶しよう。

<わくわくタイム>
○ 朝の挨拶(おはよう) 声を出して挨拶しよう。
○ 朝の挨拶(おはよう) 声を出して挨拶しよう。
○ 朝の挨拶(おはよう) 声を出して挨拶しよう。

<ぐんぐんタイム>
○ 朝の挨拶(おはよう) 声を出して挨拶しよう。
○ 朝の挨拶(おはよう) 声を出して挨拶しよう。
○ 朝の挨拶(おはよう) 声を出して挨拶しよう。

13時15分頃
給食袋、国語の教科書

4月17日(火)の
日案を整理しよう。

わくわくタイム
せいかつ
学校をもっとだんげんしよう。

わくわくタイム
せいかつ
だんげんして見つけたことを発表しよう。

ぐんぐんタイム
せんすう
10までの数の読み方や書き方を学習しよう。

13時15分頃
給食袋、生活の教科書、算数の教科書、ノート

日案

4月17日(火) 14日付

<朝>
○ 掃除機を回す。掃除機が回らない理由を調べる。
○ 朝の挨拶(おはよう) 声を出して挨拶しよう。
○ 朝の挨拶(おはよう) 声を出して挨拶しよう。


<わくわくタイム>
○ 朝の挨拶(おはよう) 声を出して挨拶しよう。
○ 朝の挨拶(おはよう) 声を出して挨拶しよう。
○ 朝の挨拶(おはよう) 声を出して挨拶しよう。

<ぐんぐんタイム>
○ 朝の挨拶(おはよう) 声を出して挨拶しよう。
○ 朝の挨拶(おはよう) 声を出して挨拶しよう。
○ 朝の挨拶(おはよう) 声を出して挨拶しよう。

13時15分頃
給食袋、生活の教科書、算数の教科書、ノート

4月7日 ～ 4月28日

「やること」を押さえることが中心となっ
てしまっているな。



昨年度の課題

参考例2 「足跡カリキュラム」

進め方 ★テーマの姿を円滑につないでいくために★

◆子どもの姿の情報共有、架け橋期のカリを考え、実践

入学前、入学直後、運動会、秋、研究授業、卒園前の姿を見て知る

ドキュメンテーション等を通して知る

研修会を通して知る 環境を見て知る

◆スタートカリの実践と足跡カリキュラム（1年間を通して）の作成

◆年長クラスの保育実践と足跡カリキュラム（1年間を通して）の作成

◆保護者に向けて理解を図る

スタカリアアンケート、就学時健診時のビデオ、入学説明会資料

入学説明会資料（台小スタートブック）の共有

◆子ども同士の交流

足跡カリ
まずは国の様子
を知ることから
始めよう

子どもの姿を通して架け橋期のカリを考える

◆国の「ドキュメンテーション」作成

◆ドキュメンテーションを通して小学校が学ぶ



タイトル
「年長 自信と達成感に★」 (6月)



タイトル
「電車のことなら任せて♪」 (9月)

4月

わくわくタイム 学校たんけん



ストーリー性を大切にしながら、児童の興味をひくことができるようにしています。

4~11
月

6年生とのかかわり



6年生との活動を掲示しました。自分のペアのお兄さん、お姉さんという気持ちを持ち、親しみをもってかかわることができます。

カリキュラムの改善(一例)

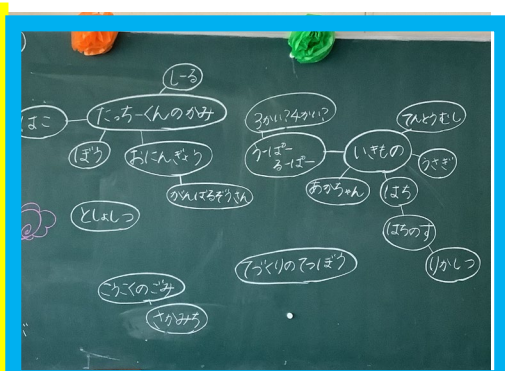
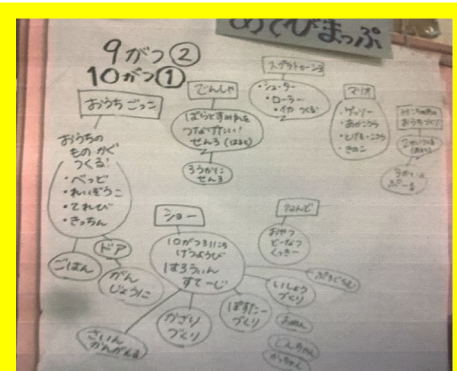
保育実践

生活科

教科等における
工夫

ウェビングマップ

サークルタイム・グループゲーム



園

小学校 (4月)

視覚支援ツール

園

小学校 (4月)

みんなでの活動の経験

○日々の保育・教育への反映を「**持続可能**」とするために

方策6

横浜市の幼保小連携推進(3種の地区)の一層の充実

【区を単位とした推進地区】

① 幼保小教育交流事業



【学校区を単位とした推進地区】

② 幼保小 連携推進地区 (R5 32地区)



③ 接続期カリキュラム研 究推進地区 (R5 4地区)



- ・ 報告会について・・・地区同士の情報交換の場
- ・ HPでの紹介・・・報告書の紹介

③教師の指導・援助及び子どもの学びの変化

事例①

互恵性のある交流活動を支える職員間の連携

園児に“してあげる”
ことで、1年生の自信
になってほしい!
(1年担任)



安心して小学校への
入学を迎えてほしい!
(5歳児担任)



まずは、仲良しになることが大事ですね!

公園での出会い



ZOOMで



保育園へ



もっと、交流の質を高めていこう!



1学年担任

5歳児と公園で出会うことをきっかけに、もっと仲良くなりたいと活動が広がることを期待します。

名前を呼び合える関係になりたいですね。

5歳児の方から話しかけてくれたり、走るのが速かったりと、「すごい」と感じ、仲良しの友達という意識が育ってきたようです。

園児との関係は、1年生が「してあげる」のではなく、仲良しだからだいたいじにしたいと思いつくことだと気づきました。

子どもの育ちへの 願いの共有

交流やめあての確認

子どもの気付き や発見、育ちの 共有

次の交流の めあてへ…

安心して関わり合う関係性を築くことへ…

1年生と一緒に遊んだり、小学校のことを聞いてみたりすることで小学校が身近になると嬉しいです。

「仲良しの〇〇くん、次は保育園のことも伝えたい!どうやったら伝わるかな」と計画しています。

たくさんのことを教えてくれたり、マラソン大会の応援をしてくれたり、1年生ってすごいな、という声が多く聞かれました。

仲良しの友達がいる、学校のことを知っているということで、小学校に入学するのがとても楽しみになってきたようです。

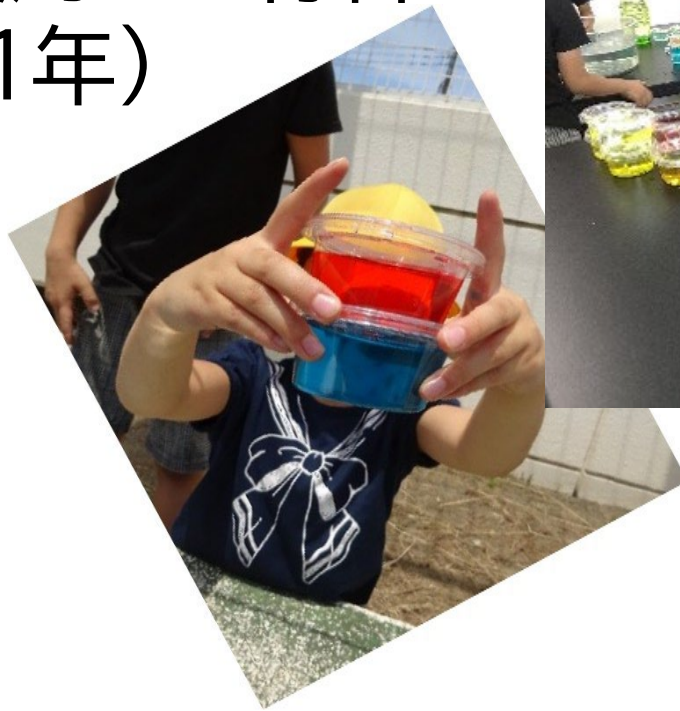


5歳児担任

③教師の指導・援助及び子どもの学びの変化

事例②

色水遊びに入る前に保育園
での経験や、使用した材料
等をリサーチ(1年)



③教師の指導・援助及び子どもものの学びの変化

小学校からのアプローチを
きっかけに、豊かな活動が生
まれる(5歳児)



④次年度以降の展望



明日をひらく都市
OPEN X PIONEER

方策5、方策6の重点実施

方策5（令和5年度後半～6年度）

推進地区のカリキュラム作成例等による「参考例」の提示

「架け橋プログラム」に焦点を当てた実践事例集の刊行

「横浜版接続期カリキュラム『育ちと学びをつなぐ』令和5年度改訂版」策定

方策6

横浜市の幼保小連携推進(3種の地区)の一層の充実